

(1) 出題される課題

| 課 題 | 減 点 事 項 | 減点数 |
|-----------------------------------|---|--------------------------|
| 1. 銃器の点検、分解及び結合 | ○点検、分解及び結合ができない場合 ○点検、分解及び結合が円滑でない場合 ○銃口を人に向けた場合 ○各操作を行う際に、実包の有無、銃腔内の異物の有無を確認しない場合 ○用心鉄の中に指を入れた場合 | 31 10 10 5 5 |
| (1) 銃器の点検操作 銃器の安全点検をさせる | ○銃身、作動部(二連銃の場合は、先台、開閉レバー、安全子、半自動銃の場合は、先台、遊底、安全子)、銃床、銃器各部の接合状況の異常の有無を確認しない場合 | 5 |
| (2) 銃器の分解及び結合操作 銃器を分解したのち結合させる | ○操作が不確実な場合 ○操作が粗暴な場合 | 5 5 |
| 2. 装填、射撃姿勢、脱包 | ○装填、射撃姿勢、脱包ができない場合 ○装填、射撃姿勢、脱包が円滑でない場合 ○銃口を人に向けた場合 ○各操作を行う際に、実包の有無、銃腔内の異物の有無を確認しない場合 ○用心鉄の中に指を入れた場合 | 31 10 10 5 5 |
| (1) 模造弾の装填操作 模造弾を装填させる | ○用意された模造弾をすべて装填しなかった場合 ○二連銃を粗暴に閉鎖した場合 | 5 5 |
| (2) 射撃姿勢操作 射撃姿勢をとらせる | ○水平射撃の姿勢をとった場合 ○不安定な射撃姿勢をとった場合 | 5 5 |
| (3) 模造弾の脱包操作 模造弾を脱包させる | ○装填された模造弾をすべて脱包しなかった場合 | 5 |
| 3. 団体行動の場合の銃器の保持、銃器の受渡し | ○銃器の保持、銃器の受渡しができない場合 ○銃器の保持、銃器の受渡し円滑でない場合 ○銃口を人に向けた場合 ○各操作を行う際に、実包の有無、銃腔内の異物の有無を確認しない場合 | 31 10 10 5 |

| | | |
|---|---|--|
| <p>(1) 銃器の保持操作 3～5人が縦隊及び横隊で移動する場合の銃器の保持を行わせる</p> <p>(2) 銃器の受渡し操作 高所にいる人又は近接できない人との間で銃器の授受を行わせる</p> | <p>○用心鉄の中に指を入れた場合</p> <p>○保持の方法が不適切な場合</p> <p>○銃器の授受の方法が不適切な場合</p> | <p>5</p> <p>5</p> <p>5</p> |
| <p>4. 休憩時の銃器の取扱い</p> <p>(1) 銃器の安置操作 休憩の際に銃器を置くことを行わせる</p> | <p>○休憩時の銃器の取扱いができない場合</p> <p>○休憩時の銃器の取扱いが円滑でない場合</p> <p>○銃口を人に向けた場合</p> <p>○各操作を行う際に、実包の有無、銃腔内の異物の有無を確認しない場合</p> <p>○用心鉄の中に指を入れた場合</p> <p>○銃器を置く動作が粗暴な場合</p> <p>○銃器を不安定な場所に立て掛けた場合</p> <p>○薬室の開放あるいは弾倉の取り外しをしなかった場合</p> | <p>31</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>5</p> <p>5</p> <p>5</p> <p>5</p> <p>5</p> |
| <p>5. 圧縮等、装填、射撃姿勢</p> <p>(1) 圧縮等操作 ポンプ式、スプリング式もしくはプリチャージ式模造空気銃を用いた圧縮操作又は圧縮ガス式模造空気銃を用いたポンベの取り付け動作を行わせる</p> <p>(2) 装填操作 弾丸を装填する姿勢をとらせ</p> | <p>○圧縮操作等、装填、射撃姿勢ができない場合</p> <p>○圧縮操作等、装填、射撃姿勢が円滑でない場合</p> <p>○銃口を人に向けた場合</p> <p>○各操作を行う際に、実包の有無、銃腔内の異物の有無を確認しない場合</p> <p>○用心鉄の中に指を入れた場合</p> <p>○圧縮操作等が不確実な場合</p> <p>○圧縮操作等が粗暴な場合</p> <p>○装填する動作が不確実な場合</p> | <p>31</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>5</p> <p>5</p> <p>5</p> <p>5</p> <p>5</p> |

| | | |
|------------------|--|---|
| る | | |
| (3) 射撃姿勢操作 | | |
| 射撃姿勢をとらせる | ○水平射撃の姿勢をとった場合 | 5 |
| | ○不安定な射撃姿勢をとった場合 | 5 |
| (4) 脱包操作 | | |
| 弾丸を取り出す動作をさせる | ○脱包する動作が不確実な場合 | 5 |
| (5) 圧抜き操作 | | |
| 圧縮された空気を抜く動作をさせる | ○銃口を下以外に向けて動作した場合 この動作の時のみ用心鉄の中に指を入れて良い | 5 |
| (6) 銃器の安置動作 | | |
| 銃器を置くことを行わせる | ○銃器を置く動作が粗暴な場合 | 5 |
| | ○装填部を開放し見えるように置かない場合 | 5 |

1～4は散弾銃、5は空気銃についての取扱い

(2) 試験の実施方法

技能試験に使用する銃器は、模造散弾銃、模造空気銃。

通常は、水平二連銃、スプリングまたはポンプ式空気銃が用意されていることが多い。

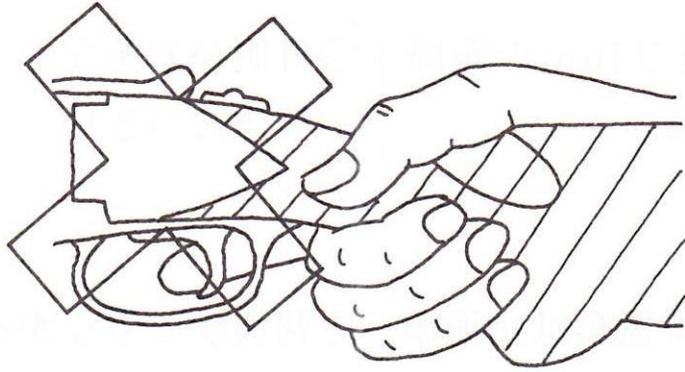
また、試験に使用される銃器は銃口が塞いである模造銃なので、異物の確認などはポーズを真似して行うだけになる。

(3) 対応ポイント

銃器を手にしたときは、実包や異物の有無の確認をする、銃口を人には向けない、銃器を置いたり手渡したりするときも実包や異物の有無を確認して薬室を開放する、用心鉄の中に指を入れない、銃器を粗暴に扱わない、などの銃器の操作の際の基本的な原則を守ることが大事である。

① 全体を通して

- 用心鉄の中に指を入れないこと



○銃口を人に向けないこと



○動作の始めと終わりに、「実包、銃腔内の異物の有無」をかくにんすること



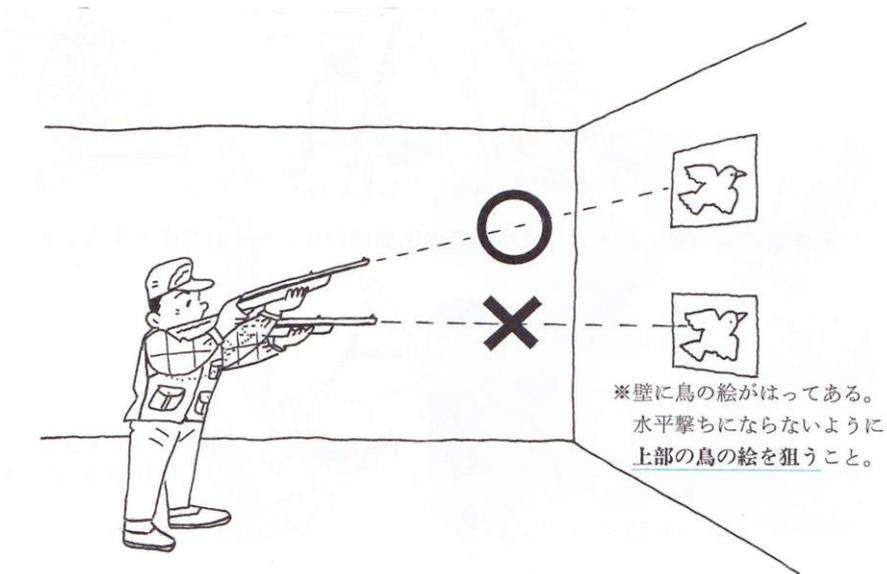
② 銃器の点検・分解・結合

○銃器の種類によって分解や結合の方法が異なるので、間違えないように覚えておくこと



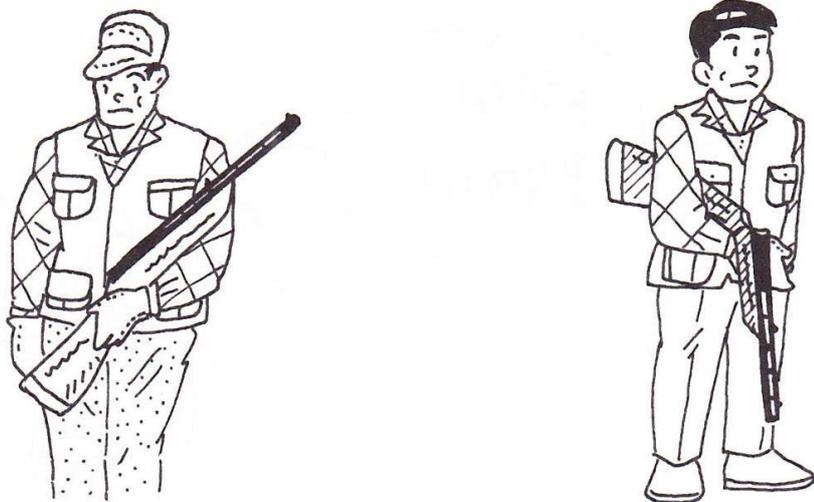
③ 装填・射撃姿勢・脱包

○水平うちの射撃姿勢をとらないこと

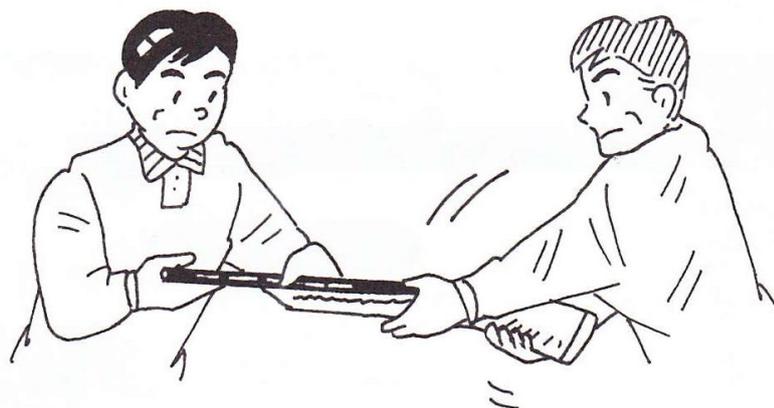


④ 団体行動時の銃器の保持・受渡し

○決められた形(方法)で銃を持つこと



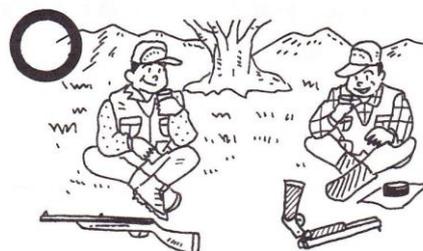
○脱包を確認の上、銃床を相手に向けて手渡すこと



銃床を相手側に向ける

⑤ 休憩時の銃器の取扱い

○開放状態で、安定した場所に置くこと



⑥ 空気銃等の圧縮

○ポンプ式の圧縮回数は3～4回程度とすること



※プリチャージ式空気銃も説明に使用される場合がある。

(4) 分解・結合の順序

| | | |
|--------|----|---|
| 上下二連銃 | 分解 | ①先台を外す ②レバーひねって銃身を折る ③銃身を外す |
| | 結合 | ①銃身をはめて閉鎖する ②先台をはめる(安置するときは、銃身を折って開放状態にしておく) |
| 自動装填式銃 | 分解 | ①キャップを取る ②先台を抜く ③銃身を抜く |
| | 結合 | ①銃身を入れる ②先台を入れる ③銃身を押しさえキャップを締める(安置するときは、遊底を開いて開放状態にしておく) |

※上下二連銃の結合

外れたときの角度で組み始める。



※自動(装填式)銃の結合

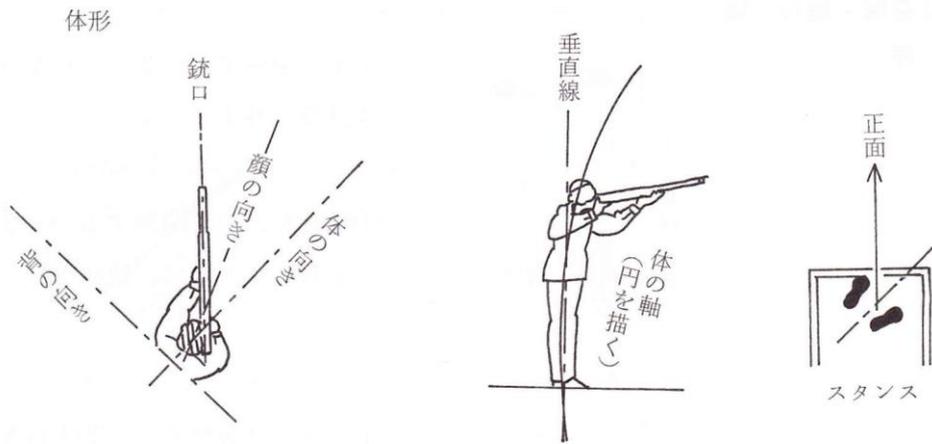
銃身を入れるとき、遊底を押し上げながらでないとうまく装着できない構造の銃もあるので注意が必要である。



(5) 銃の持ち方

① 構え方

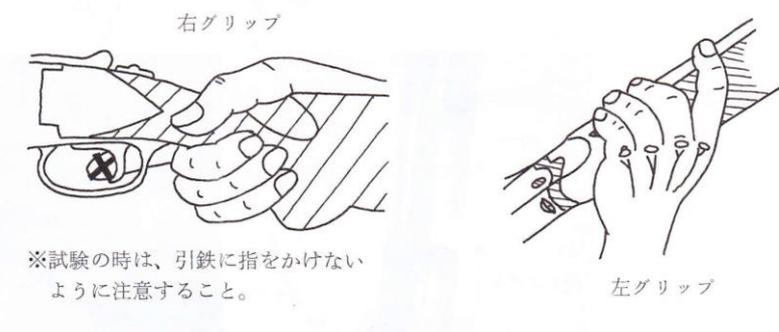
(体型)



(肩付け、頬付け)

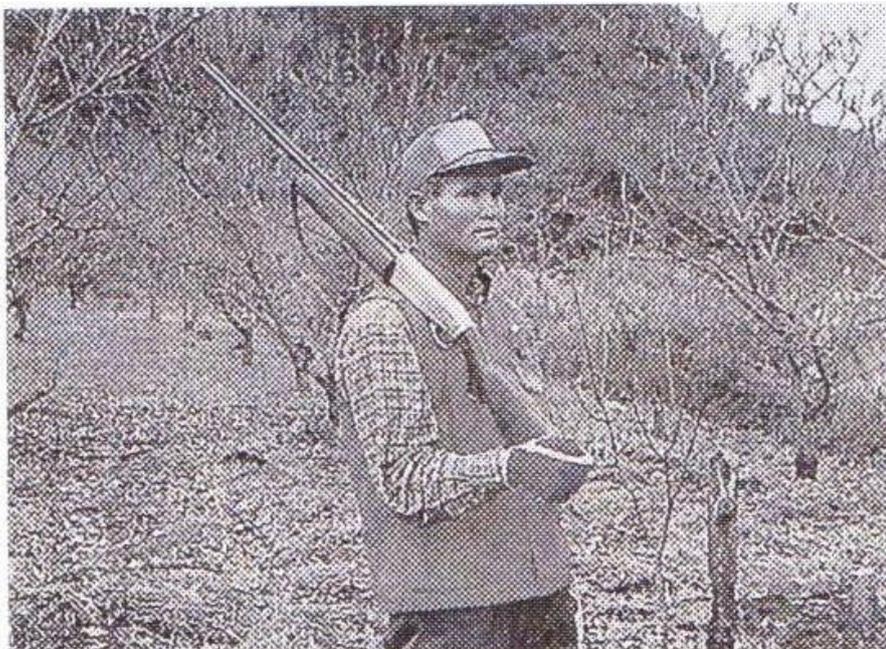


(グリップ)

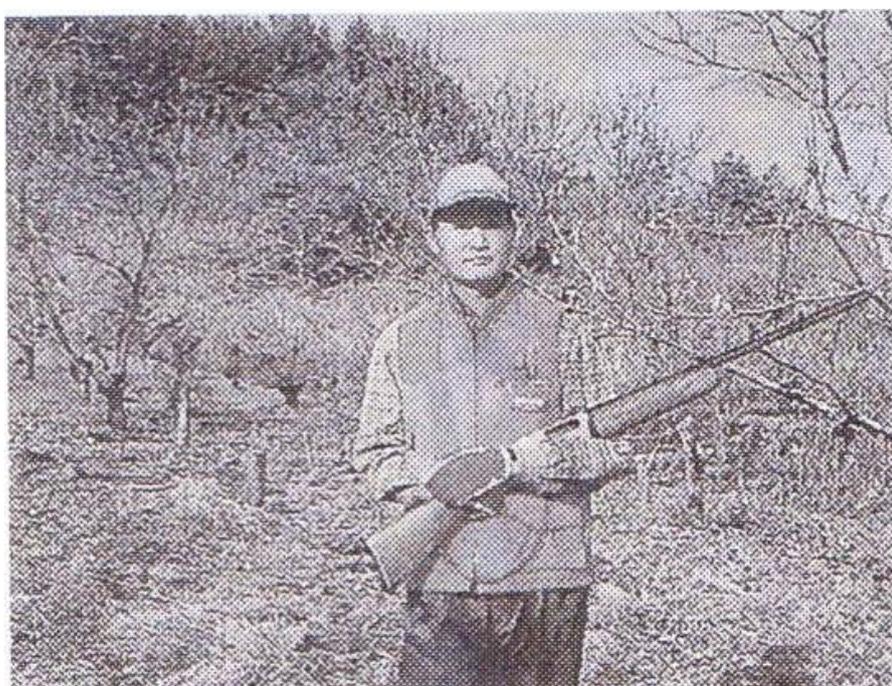


②持ち方

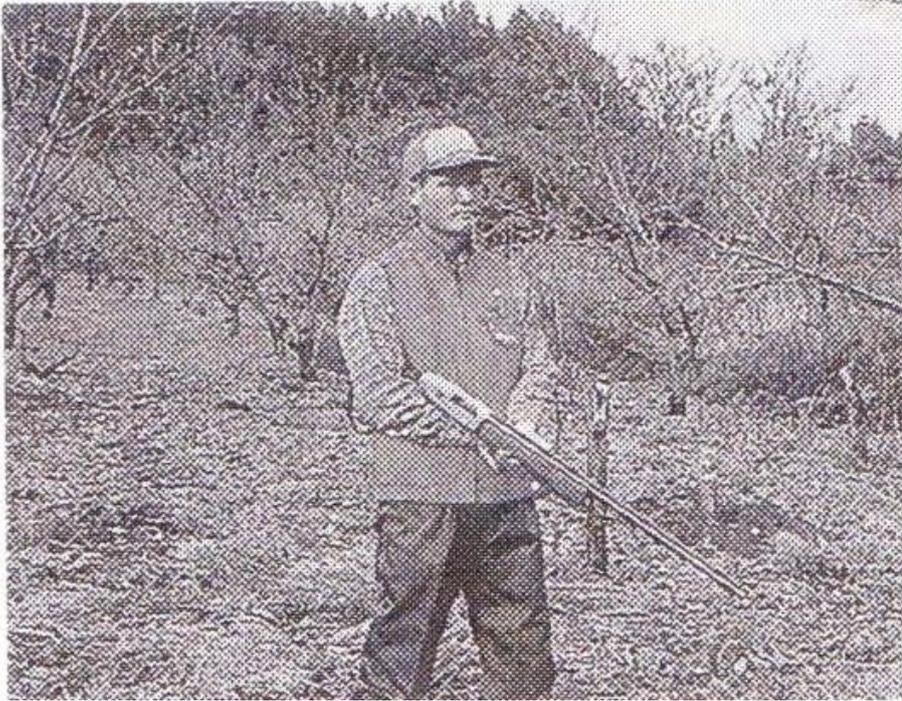
1) 基本的な持ち方



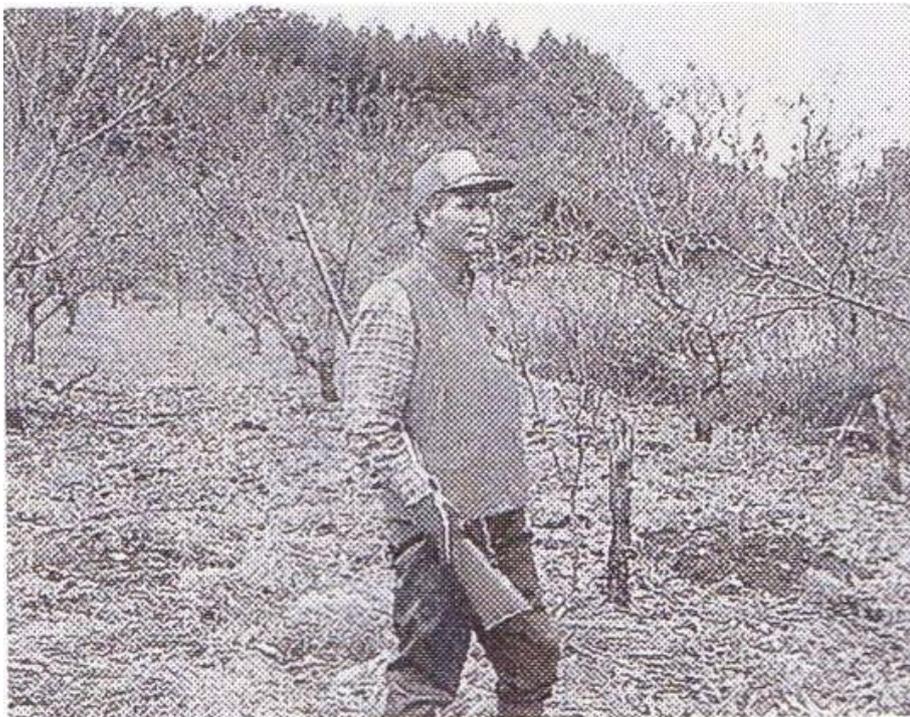
肩にかつぎ銃口を上に向け、かついだ方の手で、しっかり銃床を保持する。ただし、この場合転倒すると銃器が投げ出される欠点がある。



グリップを握り、反対の腕の肘に先台部を託す。この場合に脱包(元折れ銃は銃器を折る)することが安全である。



小脇にかかえ銃口を前下方へ向ける。この場合銃器をかかえた反対の手で銃器をしっかり握るようにすることが良い。なお、このとき脱包(元折れ銃は銃器を折る)することが安全である。

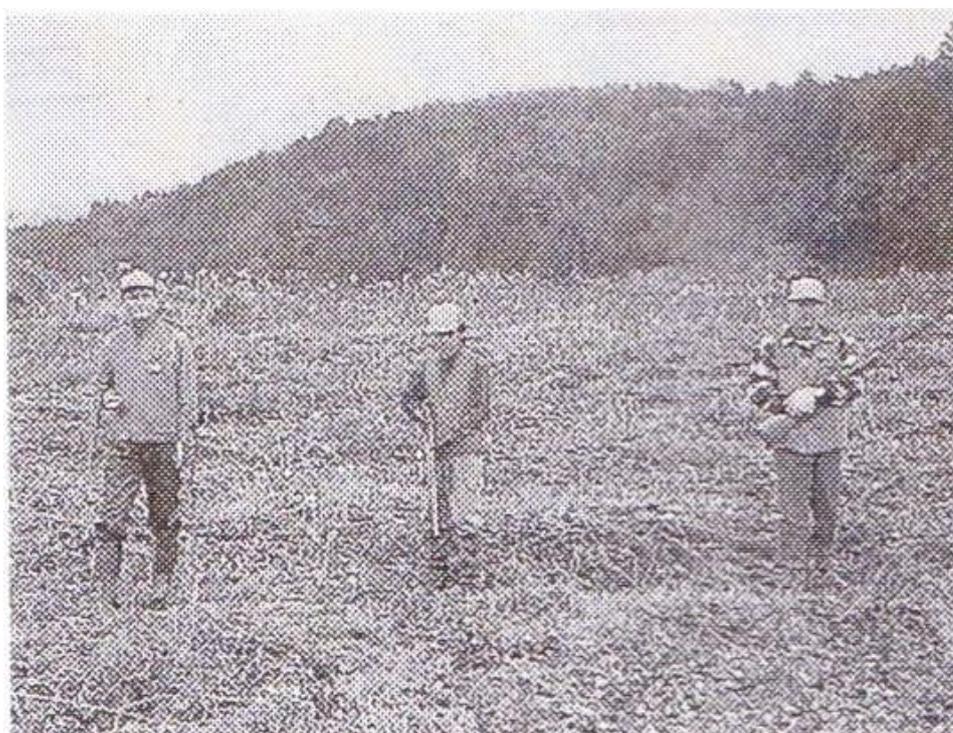


負革で肩にかけ、手でグリップを握る。

2) 横隊の場合



2人横隊の場合(互いに逆の保持法でもよ)

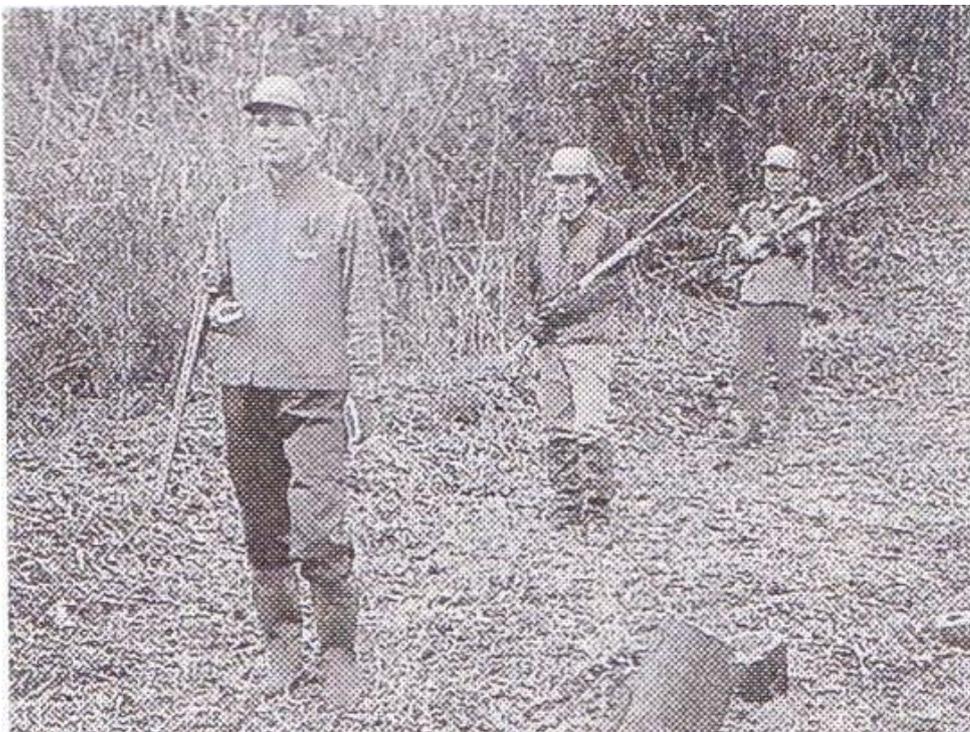


3人横隊の場合。

3) 縦隊の場合



2人縦隊の場合。



3人縦隊の場合。